

遺伝資源の保護・生物多様性の経済価値評価

遺伝資源の保護

◆遺伝資源の重要性

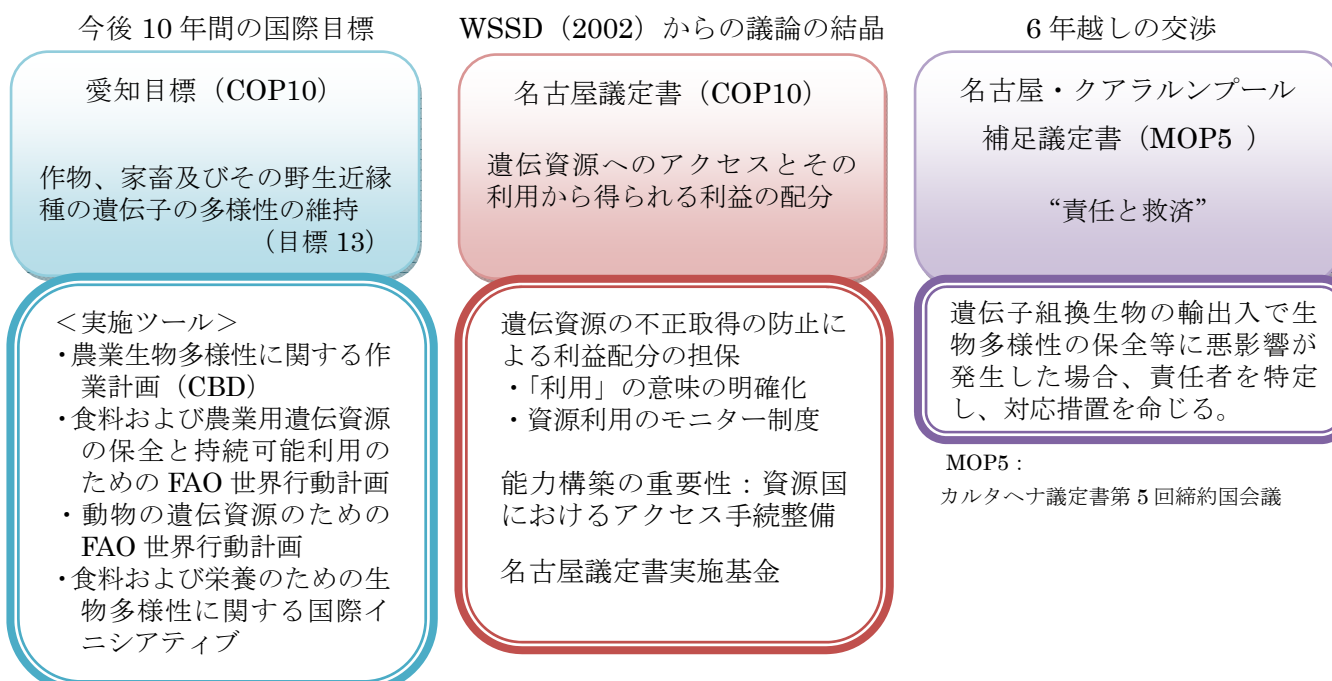
- ・長い進化の過程の末に残されてきたもの
- ・人間にとっての（潜在的）有用性：医学・生物学など
 - 栽培植物、家畜、野生近縁種、その他の社会経済上、文化上、貴重な種

◆自然生態系及び栽培作物・家畜生産系の双方で遺伝子の多様性の減少が継続（GBO3）

- ・遺伝的多様性全般：種の個体数の減少、景観・内水面・海洋生息地の分断化による深刻な減少
- ・動植物の品種の多様性：生産景観や農業品種の同質化により減少。環境変化への脆弱性への不安。

栽培植物の原種保護、家畜などの系統保護や野生生物の地域個体群の保護が課題
→ 生息域内保全と生息域外保全

◆MOP-5、COP10における遺伝子関連分野での進展



※ 名古屋議定書により期待される成果

- ・透明・明確なルールの確保による遺伝資源の利用促進を通じた人類の福利への貢献
- ・利益の適切な配分による世界的な生物多様性保全の推進

生物多様性の経済価値評価

●生物多様性の主流化を進める手段の一つとして、生態系サービスの経済価値を評価し、その価値を示すことで意思決定に活かす方法がある。この観点に基づいて、TEEB（生態系と生物多様性の経済学）が作成され、COP10（2010）で最終報告された。

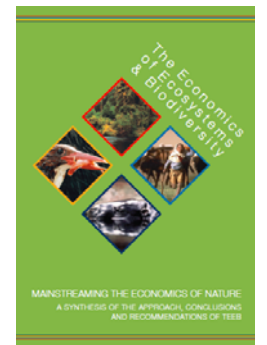
●TEEB を次の段階へと進める新たなパートナーシップが、COP10 で世界銀行によって発表された。これは、自然資本の価値評価が各国の経済政策や開発政策の企画立案時に組み入れられることで、自然環境の効果的管理や持続可能な開発の促進が世界的に広がることを目的としている。

TEEB（生態系と生物多様性の経済学：The Economics of Ecosystems and Biodiversity）

経済学的な観点から生物多様性の喪失について世界レベルで研究された成果を取りまとめたもので、全体で 5 部構成（D0：理論編、D1：政策立案者向け、D2：地方行政担当者向け、D3：事業者向け、D4：市民向け）となっている。

【TEEB の経済評価（例）】

- ・森林の保護による温室効果ガス排出の防止は 3.7 兆米ドルに相当
- ・世界の漁業資源は毎年 500 億米ドル減少
- ・自然食品や自然飲料の世界的な売り上げが毎年 50 億米ドル増加しており、2007 年には 460 億米ドルに達した
- ・エコツーリズムは旅行業界で最も成長の速い分野であり、世界的には毎年推定 20%増加している



TEEB の総合報告書

WAVES（生態系価値評価：Wealth Accounting and the Valuation of Ecosystem Services）パートナーシップ

本パートナーシップは森林、湿地、サンゴ礁などの生態系や生態系サービスが持つ自然資本の価値を経済面から評価し、それが各国の経済政策や開発政策の企画・立案の意思決定に組み入れられることで、世界的に自然環境が効果的に管理され、持続可能な開発が促進されることとする。世界銀行（WB）が COP10 にて発表したパートナーシップであり、TEEB の調査結果を引きつぎ、次の段階である国家レベルへとスケールアップしていくのが狙い。パートナーシップには UNEP 等国际機関、NGO、先進国・途上国など各国が参加。中間成果をリオ+20（2012 年）にて発表予定。

【活動計画の内容】

- 以下の 4 つの活動が行われる。実施パイロット国は現段階でカンボジア、インド、マダガスカル、メキシコ、フィリピン、ウガンダの 6 ヶ国。
- ・コンポーネント 1. 国・州レベルでの生態系サービスに焦点を置いた自然資本の価値評価の実施
 - ・コンポーネント 2. 定量化された自然資本の価値の政策分析や開発計画への活用・組込
 - ・コンポーネント 3. 世界各国で応用可能な生態系価値評価の標準ガイドラインの作成
 - ・コンポーネント 4. パイロット国以外への自然資本の価値評価の活用の働きかけ